令和７年度 鹿児島市小中連携研修（中郡小・鴨池小・鴨池中グループ）のまとめ

鹿児島市立鴨池中学校

１　主題

子ども一人一人のよさを生かし、生きるちからをはぐくむ小中連携研修

２　主題設定の理由

変化の激しい社会をこれから担っていく子どもたちに必要な「生きる力」を育むため、確かな学力・健やかな心と体の育成が学校教育に求められている。学校教育の現場でも様々な変革が求められる中、同地域に生活する児童・生徒の健全育成や学力向上、及び児童・生徒に寄り添う教育を目指し、引き続き小中学校間で情報交換をしながら各校の特性を生かした実践や提言を共有することが有意義であると考え、主題を設定した。

３　研究の視点

Ａ　学習指導　　基礎・基本の習得を目指し、特性に応じた指導の工夫
Ｂ　生徒指導　　情報交換及び組織的な生徒指導の在り方
Ｃ　特別支援教育　　支援の必要な児童・生徒に対する手立て
Ｄ　小中の接続　　情報交換及び円滑な接続のための手立て

※ 養護教諭は情報交換後、養護教諭部会を実施。

４　研究の実際

⑴研修の流れ

４月３０日 ３校担当者会（鴨池中学校）
５月１日～６月６日　各視点についての課題及び取組についての話合い・資料作成
６月２０日 小中連携研修会（鴨池中学校）
○　授業参観
○　分科会
○　全体会
６月２３日～６月３０日 各分科会での決定事項のまとめ・確認、研修会の反省
７月１日～共通実践事項の実践

⑵小中連携研修会のまとめ

○　分科会（各校の現状や課題と共通実践事項）

分 科 会	現状や課題	共 通 実 践 事 項
Ａ 学習指導	・話す場面と聞く場面の区別をつけられず、集中して聞くことができない児童が多い。 ・板書をノートに書き写すことに時間を要するなど、「書くこと」に課題がある。 ・話し合い活動の際の進め方を、小中で連携して、共通した形で取り組めないか。（役割分担やファシリテーター役の決定のしかたなど）	⑴　３校で児童生徒の話し合い活動マニュアルの共有、実践。 ⑵　各教科および単元において「書く活動」の量の確保。 （高校へ進学する際に、板書等の書く機会が各段に増えること、書くスピードが求められるであろうことを見据え、タブレットで板書の写真を撮って終わるのではなく、ノートに書かせるなどして書く活動を意図的に設ける。ノート指導と併せて実施。）

分 科 会	現 状 や 課 題	共 通 実 践 事 項
B 生徒指導	・スマホ、タブレット等の家庭での取り扱い方。 ・１分前着席の徹底ができていない。	(1) ３校合同でスマホについてのルールを設ける。 （情報モラルの学習、保護者への啓発等） (2) 授業前黙想の実践。
C 特別支援教育	・学習意欲がなかなか持続できない児童への手立て。 ・交流学級における授業での対応。（モチベーションアップの手立てなど） ・保護者との連携。	(1) 自立活動の充実。 （見通しをもった自立活動にするための年間計画。ソーシャルスキルトレーニングの工夫。） (2) 個に応じた学習支援のための ICT 機器の活用。 （保護者との連絡にまなびポケットのメッセージ機能の利用、特に複数学年いるクラスでの個別の課題として e board、熊本市教委の提供しているアプリ等の活用。）
D 小中の接続	・小中連携の取り方 ・中学校生活につながる学習、生活習慣を身に着けること。 ・相互授業参観、生徒指導等の分野での定期的な実施（可能ならば乗り入れ授業などの実施も） ・中学校のテスト期間に合わせたノーメディア週間の取組。 ・必要な校務データを中学校に引き継げないか（特に生徒指導）。	(1) 家庭学習、宅習の充実を図る。小中間の乗り入れ授業（参観） の実施。 (2) メディアコントロールの実施時期と内容を決め、実践する。 (3) スズキ校務での生徒指導上の引継のための情報共有。（スズキの活用の充実を図る。）

5 次年度への引継ぎ

・令和８年度は鴨池小学校が担当校となる。
・Ｄ分科会の参加者は、旧６年担任と現中１担任とし、気になる児童生徒についての情報交換の場とする。
・司会者や記録者は、輪番制なのかどうなのかを明確にする必要がある。（Ｒ７年度は、Ｒ６年度の司会・記録担当を参考に、輪番を意識して割り当てた。）
・各校の企画委員会や会議資料作成に間に合うよう、早めに日程や内容を連絡する。
・司会、進行には、前年度の各部会の共通課題や実践事項をまとめた紙も参考として渡す。
・複数の分科会で話し合う内容が重なっている部分があるようなので、より効率よくするために、どの分科会で何を話し合うかを明確にする。
・教科で分かれて分科会を行ってもよいのではないかという意見が出た。
・共通理解したことや、今後足並みを揃えて実施していくと決定したことは、文書化して配布する。
・Ｒ６年度の共通実践事項でノーメディア週間を実施することになっているため、単発で終わらせず、継続的に実施する。
・メディアコントロールについて、それが始まった経緯とどのように実践していくかを共通理解する必要があるのではないか。
・授業参観の時間開始をあと５分くらい遅く出来たらよかった。
・新年度は職員の入れ替えがあるため、年度当初の早いうちに共通実践事項を再度確認する。
・昨年度の申し送り事項（この引継ぎ内容）を全職員に事前に知らせておく。